

よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙顕寺

長春山 本誓寺

『よろこび』四十五（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

感謝を意識的にすることで、感謝する力、実感する力を養うことができ、人に親切にすること、人に感謝されることで、幸福を実感できるのである。宇宙は全一なる生命本佛の表れである。その分霊である人間は、神仏の愛に感謝し、仏や神や人を愛し、親切にし、感謝されることによって幸福感が得られるのだらう。それは、宇宙の英知が生命のシステムをそのようにプログラム設計しているからかもしれない。これは全生命の愛の交換、意識の共有、共感による幸福の達成である。

幸福について、考え続けていると、結局幸福の青い鳥の話のように「幸福とは、心の外にあるものではなく、心の内側にあることに気がつく」つまり、金があっても、権力があってもそれは縁の一つに過ぎない。幸福のソース、喜びの源は心の内側、真我、九識にあるのであらう。

ここでまた自分を取り巻く聴ての縁というもの、すな

わち、自分を含め一切の環境、大宇宙の聴てが神仏の慈愛によるたまもの恩寵であることも理解すべきである。そこには感謝しかない。無限の本佛の慈愛に無限の感謝あるのみ。これこそ一つの悟り、正見である。

このとき自分の内なる感謝の心を見つめ、見つめ続けていこう。その奥には神仏の無限の慈愛の光があることをあなたも喜びとともに発見するだらう。



みおしえ

「こころは禅（しず）まり忍ぶことにつよくつねにちから健（たけ）くはげむものかかると勇健者（ちからあるもの）こそこの上もなき安穩（やすら）かなる涅槃（さと）りには到らん（法句經二十二友松圓諦訳）」

（道に）思いをこらし、堪え忍ぶことつよく、つねに健（たけ）く奮励する、思慮ある人々は、安らぎに達する。これは無上の幸せである。（法句經二十三村元訳）

悟りの境地は涅槃寂靜という。想念や感情、思考を客観視し本当の自己である寂靜心に帰らう。静かな心で熱意を持って偽我と真我を見極め分別しよう。全てにとらわれぬ空なる心に達すると、安らぎ無上の幸せに到達する。

本当の自分とは、肉体ではなく感情思考想念でもなく、宇宙一切を静かに観照する全一意識である。

心の言葉

南無妙法蓮華經と唱え

自己を客観視し寂靜心に住し

ましよう

